

字わけ

白馬

2011年11月13日の夕方落日の反対側の空に出た雲の写真です。



私には白馬に見えました。これは私の記憶庫の中に白馬に関する思い出がいろいろあるからだと思います。見たとたんに「竜」だと言った人もいるからです。人によって見方は異なるということですね。ともあれ、私に見せられたイメージですので、白馬を検証したいと思います。「白竜」を検証したい方はどうぞやってみてください。

まずすぐに脳裡に浮かんだのは黙示録の一節「白馬の騎手」です。

そして、わたしは天が開かれているのを見た。すると、見よ、白い馬が現れた。それに乗っている方は、「誠実」および「真実」と呼ばれて、正義をもって裁き、また戦われる。その目は燃え盛る炎のようで、頭には多くの王冠があった。この方には、自分のほかはだれも知らない名が記されていた。また、血に染まった衣を身にまとい、その名は「神の言葉」と呼ばれた。そして、天の軍勢が白い馬に乗り、白く清い麻の布をまといこの方に従っていた。この方の口からは、鋭い剣が出ている。諸

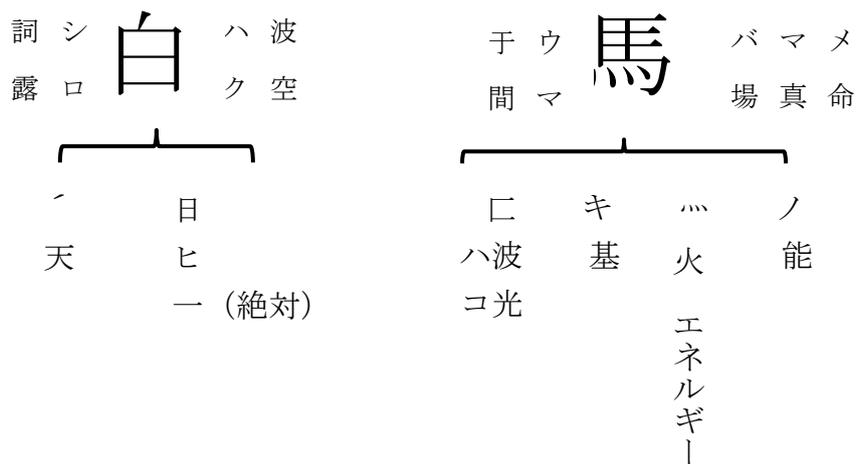
国の民をそれで打ち倒すのである。また、自ら鉄の杖で彼らを治める。この方はぶどう酒の搾り桶を踏むが、これには全能者である神の激しい怒りが込められている。この方の衣と腿のあたりには、「王の王、主の主」という名が記されていた。

ヨハネの黙示録 19章 11節

以前この部分について字わけもしたし、いろいろな面からの検証もしたので、それも含めて改めて考察しました。

「神の言葉」と呼ばれている「王の王」、「主の主」の口からは剣が出ている。言葉は英語で **WORD** となっていて、剣は英語で **SWORD (S+WORD)** と言います。白馬の白には言葉という意味があります。たとえば告白という場合はそういう意味です。黙示録には「神の怒り」が書かれています。それは人間がさんざん好き勝手な行為を続けた結果の怒りを言っているのです。いわゆるハルマゲドンの時の様子を予言した書なのですが、これは今という時なのではないでしょうか。経済にしる、環境汚染にしる、食物汚染にしる、異常気象にしる、何だか今までの「人類独尊主義」の我利我利亡者的思考形態が作り上げた人間社会というものが「どんづまり」に来ているような気がします。

では字わけです。



白もコトバという意味、コトバは吐く（ハク）もので、シロと読めば詞と露、詞（コトバ）が露れる、と字が当てられます。それはまた絶対（絶対という意味での一はヒと読む）の天であり、空の波動でもある。つまり何重にもコトバであると示している字が白なのです。これに馬と続きますと、于（プラスとマイナスが合わさって電磁気あるいは電磁場を意味する文字）すなわち宇宙です。宇宙は電磁場ですから。空間が電磁場です。「間」という所が「場」なのです。そしてそれが実は「真の生命」なのです。真の生命とは永遠不滅

の生命です。ちなみに人間がある名前を付けられて生きている数十年間の人生は真の生命が肉体に不断に流れ込んでいる期間だけに限られていて、供給が止まれば肉体は滅びます。

さて、基本であるエネルギーの機能は光という波動です。動物の馬は概念です。真の馬は基のエネルギーである振動する光の波で、それが場であり、真であり、命でもあるというのが馬という字の真意です。

この白馬に乗っているのが「神の WORD」で口から「S エス (愛数) の WORD」が出ているというメッセージがこの書に秘められているのだと解せます。ちなみに愛数は「必ず受けている数という森羅万象を構成している基本要素。天の実の親の愛でもある数」と命波理論では読み解きます。PCに詳しい人ならワープロの文字はもちろん画像も音楽もすべてが二進法による二つの数の組み合わせによるデジタル (数という意味) 情報であることはご存知と思います。あらゆる情報、現象、物体は数という基本エネルギーによって成立しているのですが、これが天の実の親の「愛」そのものでもあるのです。

S はまた 19 番目の文字なので、トク、解くとも当てられ、WORD が何なのかを解くものが SWORD、剣という切る道具です。分解すると解けるし、分かると示されているのですから、コトバを分解しました。これが「字わけ」です。

この仕組み、設えが理解できると今まで分からなかった多くの疑問の答がどんどん出てきます。それが人類の進化につながっていくのです。

何故なら人類全体が同じ一つの意識、
一つの巨大記憶庫からの情報をその時々で
各自くみ取っているのですから。
各自の理解が全体を進化させていくのです。

もうひとつおまけに、HORSE (馬) を並べ替えると SHORE (岸) になりました。舟 (フネ普負音) を岸 (キシ基詞) につなぐ綱は「字分け」であると思います。普く負うとは絶対普遍という意味で、これは光透波を指します。本来はこの光透波という舟に乗っているのが私達人類および全生命なのですが、人間だけは「親舟」の絶対愛に気づかず互いに闘争を繰り返しながら地球をここまで痛めつけてしまったのです。人間を乗せた偽の舟は今まさに滝つぼに落ちる寸前といえます。この「舟を岸につなぐ」決め手は全人類の開眼なのです。これで太母さんの提唱ともつながりました。

2011.11.29

菊池 静流